

夏季合同研究会の協議会で頂いたご意見・ご質問に対して

夏季合同研究会の協議会では、参観者の皆様から多くのご意見やご質問を頂きました。

夏季合同研究会の後、ボール運動領域部会では頂いたご意見やご質問に対して議論を行い、意見を整理してきました。まだまだ議論や研究の途上ではありますが、現段階での返答をまとめさせていただきました。

今後も真摯に研究を続けていきたいと思えます。何か分からないことやご意見などがありましたら、ぜひボール運動領域部会にご参加いただければと思います。

- ・「学習課題」の部会としての捉え方について、学習課題Ⅰの段階で作戦が出てきている。

作戦についての捉え方を教えて欲しい。(表現部)

「作戦」とは、ゲームを行う際の方針であり、作戦を選んだり振り返ったりする視点として「役割分担」「ボール操作」「動き方」を「作戦の三つの視点」として提案してきた。

段階Ⅰにおいても中学年ゲームでの既習を生かし、「作戦を考えたい」という児童はいる。段階Ⅰでは、「とりあえず考えてみたい」など、作戦の必要性を感じ、考えようとする意欲を持つ段階と捉えている。

「作戦の三つの視点」は、ゲームへの理解が深まり、技能が向上してプレーの選択肢が増えたり、トライ＆エラーを繰り返しながら新たな知識を獲得したりするなど学習の進展とともに発展していく。その度合いは児童一人一人によって異なる。

「作戦の三つの視点」をもつことによって、教師は各チーム、もしくは一人一人への支援をする際の視点とすることができる。また、作戦を考えることが苦手な児童も、視点をもつことで考えやすくなる。

- ・学習課題3の「チームの作戦から自己の課題を考える」の流れは、小学校段階でどこまで求めるものなのか。(表現部)

「作戦」とは「チームメイトのよさから考えるもの」であり、「課題」は理想と現実との差である。「チームの課題」から「個人の学習課題」を考えたり、「作戦」をもとに「個人の学習課題」を考えたりする児童はいると考えているが、「作戦から課題を考える」という学習の流れは、ボール部では考えていない。

- ・ボール運動領域の「学習課題」と子供たち一人一人がもつ「学習課題」を同じと捉えるのは難しい。(ゲーム部)

ボール運動領域の「学習課題」と、子供たち一人一人がもつ「学習課題」は、同じではない。

- ・「チームの学習課題」と「児童一人一人の学習課題」を合わせていくのは難しいのではないか。(ゲーム部)

チームの学習課題は、チームの理想の姿と現実との差をうめるために取り組む活動内容を指す。

一人一人の学習課題は、個人の課題を解決するために取り組む活動を指す。

- ・「児童一人一人がバラバラな学習課題」を「チームの学習課題」とつなげていくには、どうしたらよいか。(ゲーム部)

単元の流れの中で一致することもあり得るし、ゲームの様相によっては一時的にチームメイト全員の考えが一致することもあり得るが、チーム毎に状況は異なるし、基本的には「児童一人一人の学習課題」と「チームの課題」が一致するとは限らない。

そこで、チームで話し合う中で「チームの課題」を決めて、チームとして活動に取り組んでいく必要がある。ゲーム間のチームの時間やゲームの中でトライ＆エラーを繰り返していくことで課題解決を目指していく。

- ・1チームの人数を減らすとゲームに参加できない児童が出てくる。そのバランスを、どのように考えているか。(ゲーム部)

各学校事情によるが、教材の特性を崩さないことを意識しつつ、より多くの児童がゲームに参加できるようにしたい。

- ・「ルールを工夫する」をどこまでさせていくのか 一人一人の思いや意見をどこまで許容するのか。(ゲーム部)

ルールに明確な正解はないことを踏まえつつ、許容する範囲としては、型の特性に触れさせることを意識して判断していきたい。ルールの工夫も大切な学習内容であり、教師側がルールをどこまで提供し、どこまでを子供たちと考えていくのかを考えておく必要がある。

- ・「自己の学習課題を解決するために、友達と関わり合いながら」とすると、学習課題の範囲が広いのでは。(ゲーム部)

指摘の通りである。課題3については「仲間との連携(作戦)について学習課題を設定する」と提案していきたい。

- ・「ゲームの状況を分析」まで求めるのか。(ゲーム部)

難しく考えている訳ではなく、ゲームの様相を振り返りながら、個人やチームの課題を解決するためのトライ&エラーを繰り返しながら学習することを意味している。

- ・友達と関わり合いながら設定する「学習課題」だと、自分で決めた「学習課題」にならないのではないかと子どもに思考を求めすぎているのではないかと。(ゲーム部)

学習の場面においては、児童一人一人が自分の学習課題を考えてゲームや関わり合いに臨んでいることが前提とされている。そして、ゲームや振り返りでチームメイトと関わる中で自分に必要な学習課題に気付いたり、チームの課題から自分の必要な学習課題が見つかったりするパターンもあるのではないかと。

- ・個人の課題からチームの課題? チームの課題から個人の課題? チームの特徴に合った作戦から個人の課題を決めていくのは難しいのではないかと。(体育的活動部)

1つの单元の中で、**個→チ**の段階もあれば、**チ→個**の段階もあると考えられるが、チームの状況や、型によっても違ふと考えられる。

- ・「ゲームに参加する人数を減らして取り組む」とあるが、他の要素についてはどのように考えているのか。(体育的活動部)

具体的に授業づくりを行う段階で検討していきたい。

- ・「課題」についての定義が難しい。「課題」は目標と現実があって、その間にあるものが「課題」だと考えている。目標に向かってなんとかしたい、と思うことを「課題」と捉えるのではないかと。(保健部)

「課題」は、目標(目指す姿)と現実との差と捉えて研究を進めていきたい。

- ・一斉一律の課題解決的な授業から脱却するとあるが、ボール部の考える「一斉一律の課題解決的な授業」とはどのようなものなのか。(保健部)

児童一人一人に学習課題を考えさせず、教師が学習課題を与えて続ける授業が「一斉一律の授業」だと捉えた。

しかし、授業の流れの中においては、一斉一律に取り組んだほうがよいこともある。

「一斉一律からの脱却」とは、あくまでも課題の持たせ方における問題だと捉えている。児童にとって必要感の無い課題解決に取り組ませる授業からは脱却していきたいと考えている。「一斉一律」の意味は難しいため、部内で意見を出し合って議論したい。

ゲームとボール運動の違いとは？中学校への接続を考え、小学校段階ではどこまでを求めればよいのか。(保健部)

「遊び」を起点とする領域がゲーム領域。運動文化としての球技を起点とし簡易化して取り組むのがボール運動領域。狙っているものが違うため、求めすぎず、接続を意識すべき内容などについて学習指導要領を根拠として考えていきたい。

・運動技能に差がある場合、得意な子は自分で課題を見つけて意欲的に学習を進めていけるが、苦手な子は、一人一人の課題に焦点をあててしまうと、逆に運動の技能が広がってしまうのではないか。(体育的活動部)

知識・技能と思考力・判断力・表現力等につながりがあることは考えられる。チームで活動することで、苦手な児童の技能的な課題をチームで解決したり、自分の現状を知ることを通して自己の課題を見つけたりしていくという学習の進展もある。

・教師から与えられた課題の方が取り組みやすい場合もあるのではないか。(体育的活動部)

教師の支援で、児童一人一人が課題を見出したようにして課題を解決していくことや、子供が発案したように見せることや感じさせることも含めて、「教師から一斉一律に与えられる課題に取り組む学習」から脱却していく方法を検討するのが今年度、来年度の研究。

課題のもっていき方①⇒②⇒③の部会としての捉え方がわかりづらい 自己→チーム？ チーム→自己？
どちらかで簡潔にまとめられるものなのか。(水泳部)

夏季合研で、自己→チーム、チーム→自己、どちらかを提案した意図はない。分かりやすく伝えられるように改善していきたい。

・「ゲームを適切に振り返る」視点はとても大切だと感じた。「適切な振り返り」の具体的な様相を教えて欲しい。
(水泳部)

技能の高い児童や表現力の高い児童のみが会話したり決定したりするのではなく、苦手な児童も含めた全ての児童がゲームの映像やゲームの記録などの客観的な資料をもとに話し合う振り返りを「適切な振り返り」と表現した。

そもそも、ただ形だけ集合して話をしているだけでは「適切な振り返り」ができていないと言えない。学習内容を学ばせるために「振り返り」を行うことが大切である。

適切に振り返る手立ての一つとして、「作戦はどうだったか？」や「自己やチームの課題解決は図れたか？」、「次のゲームでは、どのようにプレーするか？」といった、話し合う視点を明確にすることが挙げられる。作戦について振り返る場合には、「作戦の三つの視点」を活用することもできる。

・学習課題は知識・技能に関するものと思考・判断に関するものが混在しているが すみ分けはあるのか。(水泳部)

図示した中では「個人」が技能的な内容、「チーム」が思考・判断・表現的な内容となっているが、現状として部全体で検討していないため、特段の意図はない。

知識・技能と思考力・判断力・表現力等は重なっているところが多いので、切り離すことはできないと考えている。